

1 単元名

筆者に感想を伝える手紙を書こう（『いろいろなふね』東京書籍）

2 単元観

本単元は、学習指導要領（平成29年告示）国語第1学年及び第2学年〔知識及び技能〕(2)「ア 共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること」及び〔思考力・判断力・表現力等〕C読むこと(1)「オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。」に基づいて設定するものである。

文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつためには，文章の内容と共通もしくは相違する経験を想起しながら，文章の内容について深く理解した上で，文章の内容に対して思いをもてるようにする必要がある。

本単元で扱う教材『いろいろなふね』は，特徴的な機能をもつ4種類の船を「役目」「つくり」「できること」の順で説明した文章である。文章中に示された船と同様の機能をもつ乗り物を児童が目にする機会も多い。そのため，例示された船と他の乗り物との共通点や相違点を見だしやすく，文章の内容に対して思いをもたせることに適した教材であると言える。

3 児童観

この単元において，初めて「考えの形成」に重点をおいて学ぶ。本学級の児童は，これまでも単元の終末で感想を発表してきた。しかし，「(主人公が)～したところがおもしろかった。」と文章の内容の一部分に対する感想を述べるに留まっており，文章の内容を自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し，想像を広げたり理解を深めたりして，文章の内容に対して思いを述べることはできていない。また，乗り物に詳しい児童もいる一方，様々な乗り物を想起できない児童もいると思われる。

4 指導観

「筆者に感想を伝える手紙を書く」という言語活動を設定し，二つの感想（良文と悪文）を比較させることを通して，どのように感想をもてばよいのかを考え，学習の見通しをもたせる。文章の内容と結び付く既習の知識や実際の経験を想起しやすくするために，児童の知っている様々な乗り物の拡大写真を提示して，学級全体で，その名称やその「役目」「つくり」「できること」を確認したり，その乗り物に見たり乗ったりした経験やその際の気持ちを説明させたりする。また，文章の内容を自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し，想像を広げたり理解を深めたりして，文章の内容に対する思いをもたせるために，ワークシートを工夫する。そのワークシートの中に，各自で4種類の船の中から1種類を選び，それと似た特徴をもつ乗り物との共通点や相違点を見いだすことによって理解したことや文章の内容に対してもった思いを記述させる。その際，理解したことや文章に対する思いを記述することが難しい児童には，つまずいていることに応じた質問をしながら児童の思いを聞き出し，記述させるようにする。ワークシートによって考えを整理した上で，筆者に感想を伝える手紙を書かせる。

5 単元の目標

- 共通，相違など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項ア
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつことができる。
〔思考力・判断力・表現力等〕C読むこと(1)オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう姿勢，人間性等〕

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
共通，相違の関係について理解している。	読むことにおいて，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。	学習の見通しをもって，積極的に文章の内容と自分の経験とを結び付け，筆者に感想を伝える手紙を書こうとしている。

【思考・判断・表現における「おおむね満足できる状況」(B) の例】

『いろいろなふね』を読んで，ふねの火じをけすために，ポンプやホースをつんでいるしょうぼうていというふねがあることをしました。(←文章の内容) ぼくは，しゃかい見学でしょうぼうしょにいったとき，いろいろなしょうぼう車を見ました。しょうぼう車に，たてものの火じをけすために，ポンプやホース，はしごがついていました，大きくてカッコよかったです。(←自分の体験) しょうぼうていとしょうぼう車は，しごとをするばしょが，うみの上か，りくの上かでちがう(←相違) けど，「火をけす」というやく目がおなじ(←共通) なので，おなじようなものをつんでいることがわかりました。火じはないほうがいいけれど，もしものときのために，こういうふねや車があるんだとわかりました。(←文章の内容の深い理解)

しょうぼう車が火をけすところはテレビで見たことはあるけれど，しょうぼうていが火をけすところは見たことがないので，見てみたいです。しょうぼうしょにはきゅうきゅう車もあつたけれど，きゅうきゅう車とおなじようなやく目のふねがあるのかしらりたいです。しごとをするのりものは，どれもカッコいいなあとおもいました。(←文章の内容に対する思い)

7 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○ 単元の学習の見通しをもつ。	- 既習の説明的な文章教材の筆者に宛てた手紙に書かれた感想として，良文と悪文を作成して提示する。 - 望ましい感想の書き方についてイメージをもたせるため，二つの感想のどちらが良いと思うか，なぜそう思うか(何が違うか)を発問する。 - 筆者に読んで分かったことだけでなく，考えたことも伝わるような感想を書くことを目標として提示し，学習計画を立てる。	
2	○ 文章を音読し，例示された船の種類とその順序を把握する。	- 文章に対する興味を喚起させるために，4種類の写真を掲示し，船の名称を予想させたり，役目，特徴を挙げたりするよう，指示する。 - 読み慣れるため，繰り返し音読するよう，指示する。 - 文章の内容と説明の順序を捉えさせるため，どのような船が，どのような順で説明されているかと発問し，写真を並べ替えながら説明するよう指示する。	
3	○ 客船とフェリーボートについて書かれている部分の構造と内容を捉える。	- 文章の特徴を見いだしやすくするために，黒板の上半分に「客船」，下半分に「フェリーボート」の文章と拡大写真を掲示する。(ワークシートも同様とする。) - 二つの船の説明に「～するための」「～があります。」「～します。」という言葉があること，「役目」「つくり」「できること」の順序で説明されていることを捉えられるよう，これらのことを掲示した文章(ワークシート)に書き込む。 「つくり」について理解を促すよう，説明と写真とを線で結び付ける。 - 文章の構造を捉えられるよう，「役目」を赤，「つくり」を青，「できること」を緑の線を引くよう指示する。 - 文章の中の重要な語や文を選び出せるよう，「○○(船の名称，以下同じ)の役目は何ですか?」「○○はどのようなつくりですか?」「○○はどのようなことができますか?」などの質問をする。	
4	○ 漁船と消防艇について書かれている部分の構造と内容を捉える。	- 客船やフェリーボートの説明では「～があります。」が用いられていたが，漁船と消防艇は「～をつんでいます。」が用いられていることを確認する。 「～をつんでいます」となっている「つくり」を示していることに気付かせるために，説明と写真とを線で結び付ける。 ※その他の指導上の留意点は3時に同じ。	
5 6	○ 文章の内容と結び付く既有的知識や実際の経験を想起する。	文章の内容と結び付く既有的知識や実際の経験を想起させるために，様々な乗り物の拡大写真を掲示し，その乗り物について知っていることや見たたり乗ったりした経験とその際の感想を説明するよう，指示する。	

		- 様々な乗り物について理解を促すために、児童の説明したことの「役目」を赤、「つくり」を青、「できること」を緑の線を引いて、確認する。 4種類の船のそれぞれと似た特徴をもつ乗り物を結び付けるよう、指示する。 ※この学習を基に、様々な乗り物についての説明の文章を指導者がリライトしておき、次時に提示する。	
7 8	○ 文章の内容と既有的知識や実際の経験を結び付けて、理解する。【本時】	- ワークシートの上半分に4種類の中から一つ選んだ船（以下、「船」とする）の写真（イラスト）と説明文を、下半分に選んだ「船」と似た特徴をもつ乗り物（以下、「乗り物」とする）の写真（イラスト）と説明文（指導者がリライトしたもの）を貼り付けるよう、指示する。 - 既有的知識や経験を想起するよう、「船」や「乗り物」のそれぞれについて、見たり乗ったりした経験やその際の感想をワークシートに書くよう、指示する。（ワークシート[A]） - 文章の内容を深く理解するために、「船」と「乗り物」との共通点や相違点を挙げさせ、どのような点で共通または相違するのを見いだすよう、発問する。（ワークシート[B 1], [B 2]） 「船」と「乗り物」の共通点や相違点を見いだしことで、「発見したこと」「分かったこと」「納得したこと」を説明するよう、発問する。（ワークシート[C]）	[知識・技能] ワークシート ・「船」と「乗り物」の共通点、相違点を見いだしている状況の確認 [思考・判断・表現] ワークシート ・ここでは、文章の内容と既有的知識や実際の経験を結び付けた理解の状況の確認
9	○ 文章に対する思いをもつ。	文章に対する思いをもたせるために、「他の人に教えてあげたいこと」「調べたいこと」「見てみたいこと」は何か（また、そう思う理由は何か）と発問する。（ワークシート[D]）	[思考・判断・表現] ワークシート ・ここでは、文章の内容と既有的知識や実際の経験を結び付けて理解を深めた文章の内容に対する思いの記述状況の確認
10	○ 感想を基に手紙を書く。	- 筆者に読んで分かったことだけでなく、考えたことも伝わるような感想を書くという目標を再度確認する。 - これまでの学習を生かして、手紙にまとめるよう、指示する。	[主体的に学習に取り組む態度] 観察、手紙 ・文章の内容と実際の経験を結び付けて手紙を書くようとしている様子の確認
11	○ 学んだことを振り返る。	本単元の目標に即して身に付いたこと、今後の学習や生活の中で生かしていきたいことについて記述できるよう、助言する。	

8 本時の展開

(1)本時の目標

文章の内容と既有的知識や実際の経験を結び付けて、深く理解することができる。

(2)準備物

ワークシート、各船の説明文をまとめたカード、前時に想起した様々な乗り物の説明文をまとめたカード

(3)学習の展開

学習活動	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準と評価方法
1 『いろいろなふね』を音読する。 2 4種類の船の中から一つを選び、それと似た特徴をもつ乗り物を選ぶ。 3 「船」と「乗り物」のそれぞれについて、既有的知識や実際の経験やその際の感想を想起する。	4種類の船の中から、「かっこいいなあ」「もっと知りたいなあ」と思う船を一つ（以下「船」とする。）選ばせる。 - その船と似た特徴をもつ乗り物（以下「乗り物」とする）を選ばせる。 ※必ず「船」から選ばせる。 - ワークシートの上半分に「船」の、下半分に「乗り物」のカードを貼り付けるよう、指示する。 「船」と「乗り物」の説明文を音読するよう、指示する。 「船」と「乗り物」のそれぞれについて、既有的知識や実際の経験やその際の感想を想起することのイメージをもたせるため、黒板にひなたさんの場合の例を示す。 - ワークシートの[A]の部分に、いつ見た（知った、乗った）のか、その際どのようなことを思ったのかを書き込むよう、指示する。 ◆「いつ」「どこで」「誰と」見た（知った、乗った）のか、どのような様子だったのか、どのようなことを思ったのかを質問して聞き出す。	

4 「船」と「乗り物」の共通点を見いだす。	「船」と「乗り物」の共通点と相違点はどのようなところにありますか。 ・「船」と「乗り物」の共通点を見いだすことのイメージをもたせるため、ひなたさんの場合を例に示す。 ・「船」と「乗り物」の説明文を読み比べ、ワークシートB 1の部分に、共通点（同じところ、似ているところ）を書き出すよう、指示する。 ◆「船」と「乗り物」の説明を比べて、同じ特徴が示されているところを黄色で囲むよう、指示する。 「おおむね満足できる状況」(B) (消防艇と消防車を選んだ場合) ・火事(火)を消すところ。 ・ポンプやホースを積んでいるところ。 ・選んだ「船」「乗り物」ごとに確認する。	
5 「船」と「乗り物」の相違点を見いだす。	・「船」と「乗り物」の相違点を見いだすことのイメージをもたせるため、ひなたさんの場合を例に示す。 ・「船」と「乗り物」の説明文を読み比べ、ワークシートのB 2の部分に、異なるところを書き出すよう、指示する。 ◆「船」と「乗り物」の説明を比べて、片方にしかない言葉や異なる特徴が示されている部分を紫色で囲むよう、指示する。 「おおむね満足できる状況」(B) (消防艇と消防車を選んだ場合) ・消防艇は船の火事を消し、消防車は建物の火事を消すところ。 ・消防艇には、はしごが書かれていない。 ・選んだ「船」「乗り物」ごとに確認する。	〔知識・技能〕 ワークシート ・「船」と「乗り物」の共通点、相違点を見いだしている状況の確認
6 「船」と「乗り物」の共通点や相違点を見いだして、文章の内容を深く理解する。	「船」と「乗り物」の共通点と相違点を見いだしたことで、発見したことや分かったこと、納得したことはありませんか。 ・「船」と「乗り物」の共通点や相違点を見いだして、文章の内容を深く理解することのイメージをもたせるため、ひなたさんの場合を例に示す。 ・ワークシートのCの部分に、発見したことや分かったこと、納得したことを書くよう、指示する。 「おおむね満足できる状況」(B) (消防艇と消防車を選んだ場合) ・仕事をする場所が違うけれど、「火を消す」という役目が同じなので、同じようなものを積んでいること。 ・火事があったときのために、消防艇や消防車があるということ。 ◆「なるほど」「だから～だ」と思ったことを、質問して聞き出す。 ・選んだ「船」「乗り物」ごとに確認する。	〔思考・判断・表現〕 ワークシート ・ここでは、文章の内容と既存の知識や実際の経験を結び付けた理解の状況の確認
7 本時の学習を振り返る。	・文章の内容を深く理解するために、どのように学んだのかを振り返らせる。	

(4)板書計画

ひつしやに かんそうをつたえる 手がみを かこう

「ふね」と「のりもの」のきょうつうてんや そういてんを見いだして、ぶんしょうのないようをふかくりかいしよう。

「ひなたさんのばあい」

【きょうつうてん】

・きょうつうてんは、にもつをはこぶためのふねです。

このふねには、コンテナというにもつをつめたはこをおくひろいスペースがあります。

たくさんのにもつをいちどにたくさんはこぶことができる場所。

【そういてん】

・かもつせんにはひろいスペースがあり、か車にはながい車りようがある。

・海をすすむか、せんろの上をすすむか。

【「はつ見したこと」】

・とおるはしながちがってても「にもつをはこぶ」というやく目がおなじで、どちらもコンテナをのせている。

・たくさんのにもつをはこぶためのはしがある。

【「はつ見したこと」】

・「わかったこと」

・「なっとくしたこと」

【きょうつうてん】

・かもつせんは、にもつをはこぶためのふねです。

このふねには、コンテナというにもつをつめたはこをおくひろいスペースがあります。

たくさんのにもつをいちどにたくさんはこぶことができる場所。

【そういてん】

・かもつせんにはひろいスペースがあり、か車にはながい車りようがある。

・海をすすむか、せんろの上をすすむか。

【「はつ見したこと」】

・とおるはしながちがってても「にもつをはこぶ」というやく目がおなじで、どちらもコンテナをのせている。

・たくさんのにもつをはこぶためのはしがある。

【「はつ見したこと」】

・「わかったこと」

・「なっとくしたこと」

※ ここでは、貨物船と貨物列車を選んだひなたさんの場合を示しているが、児童が選んだ「船」と「乗り物」についても模造紙等を書いて壁や窓に貼り出し、学びを共有できるようにする。

(5)ワークシートへの記入例

ひつしやに かんそうをつたえる 手がみを かこう

「ふね」と「のりもの」のきょうつうてんや そういてんを見いだして、ぶんしょうのないようをふかくりかいしよう。

「ひなたさんのばあい」

【きょうつうてん】

・きょうつうてんは、にもつをはこぶためのふねです。

このふねには、コンテナというにもつをつめたはこをおくひろいスペースがあります。

たくさんのにもつをいちどにたくさんはこぶことができる場所。

【そういてん】

・かもつせんにはひろいスペースがあり、か車にはながい車りようがある。

・海をすすむか、せんろの上をすすむか。

【「はつ見したこと」】

・とおるはしながちがってても「にもつをはこぶ」というやく目がおなじで、どちらもコンテナをのせている。

・たくさんのにもつをはこぶためのはしがある。

【「はつ見したこと」】

・「わかったこと」

・「なっとくしたこと」

【きょうつうてん】

・きょうつうてんは、にもつをはこぶためのふねです。

このふねには、コンテナというにもつをつめたはこをおくひろいスペースがあります。

たくさんのにもつをいちどにたくさんはこぶことができる場所。

【そういてん】

・かもつせんにはひろいスペースがあり、か車にはながい車りようがある。

・海をすすむか、せんろの上をすすむか。

【「はつ見したこと」】

・とおるはしながちがってても「にもつをはこぶ」というやく目がおなじで、どちらもコンテナをのせている。

・たくさんのにもつをはこぶためのはしがある。

【「はつ見したこと」】

・「わかったこと」

・「なっとくしたこと」

※ ワークシート上のA、B1、B2、C、Dは、「6 指導と評価の計画」及び「7 本時の展開（3学習の展開）」の指導上の留意点に示すものと対応している。ただし、児童に配付するワークシートには示さない。（Dは次時に記入する。）